

調査研究に関する成果報告書

提出年月日		令和4年6月17日	部名	微生物部
調査研究課題		新型コロナウイルス感染症が疑われた呼吸器感染症の病原体調査		
調査研究体制	主任研究者	山口佳織		研究区分 (小分類)
	その他の研究者	宮原聖奈（現 県立日南病院） 西田倫子、三浦美穂、吉野修司 杉本貴之（現 中央保健所）		
	調査研究期間	令和2年度 ～ 令和3年度（2か年間）		
	調査研究費	予算項目	令和2年度	令和3年度
	国費	千円	千円	千円
	県費	500千円	500千円	千円
	その他	千円	千円	千円
	合計	500千円	500千円	千円
調査研究の目的		<p>新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、SARS-Cov-2 によって起こる呼吸器感染症で、主に接触・飛沫感染により感染するが臨床症状からは、他の呼吸器感染症との鑑別が困難である。当所には、令和2年2月14日から6月17日までに1,126検体が搬入されたが、その約99%が陰性であり、その他の呼吸器感染症に罹患している可能性が示唆された。新型コロナウイルス検査陰性であった検体を対象に、呼吸器感染症の遺伝子検査を行うことで、本県の呼吸器感染症の状況を明らかにすることを目的とする。</p>		
<p>調査研究成果の概要</p> <p>（目標の達成状況 行政施策への寄与度 技術開発への寄与度 県民への波及効果 今後の発展性など）</p>		<p>令和2年2月14日から11月9日までに当所に新型コロナウイルス感染症疑いとして検査依頼のあった検体のうち、新型コロナウイルス陰性かつ有症者を対象に残検体を確保できた785例に対して呼吸器感染症の原因となるウイルス6種類及び細菌4種類について、令和2年度は細菌を対象に、令和3年度はウイルスを対象にリアルタイムPCR法及びマルチプレックスPCR法をそれぞれ行った。その結果、HRV 54例、肺炎マイコプラズマ15例、hMPV 14例、influenza virus 4例、HCoV229E 4例、HCoVOC43 2例、百日咳2例、<i>B.holmesii</i> 1例、HRV とパラ百日咳の混合感染1例の計97例（検出率12.4%）からいずれかの病原体が検出され、新型コロナウイルス感染症が疑われた症例にはこれらの病原体が関与していたことが示唆された。感染症発生動向調査は主に小児を対象としているが、新型コロナウイルス感染症疑い検体は成人が多くを占めており、宮崎県内における成人の呼吸器感染症の状況を検討する機会となった。今回の調査で、様々な病原体が検出されたことから、呼吸器症状を示す病原体の検出状況及び感染リスクに関する情報を広く提供することは重要であると考えます。なお、有症者に対する新型コロナウイルス感染症の検査はすべて行政検査で実施していたが、令和2年11月10日より検査対象が積極的疫学調査に伴うものとなったことから、調査の対象となる検体が収集できなくなったため、令和3年度の報告をもって終了とする。</p>		
備考				